

令和六(二〇二四)年度 入学試験問題(二次)

国語

令和六年一月二十日

十三時三十分～十四時三十分

〈全体的な注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けないでください。
- 二 この冊子の本文は、十六ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には申し出てください。
- 三 試験開始とともに、解答用紙の指定欄に受験番号・氏名を記入し、さらに解答用紙のマーク欄に受験番号をマークしてください。
- 四 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入してください。
- 五 問題冊子の余白等は適宜利用してよいですが、どのページも切り離してはいけません。
- 六 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、試験監督者がカードを用いて注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 七 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。持ち帰った場合は、失格となります。
- 八 やむを得ずトイレに行く場合や質問がある場合には、無言で手をあげ、試験監督者の指示に従ってください。

〈マーク記入上の注意事項〉

- 一 解答は各設問ごとに指定された数だけ選び、該当する記号を塗りつぶしてください。
- 二 解答には、HB以上の鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 三 訂正は消しゴムできれいに消してください。

第一問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問六）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一

空欄 a ｝ d

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

a

1

b

2

c

3

d

4

- ① 一概に
- ② あわよくば
- ③ 同じく
- ④ しかし
- ⑤ まずもって
- ⑥ 要するに
- ⑦ このように
- ⑧ というのも

問二

空欄 X

・ Y

に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

X

5

- ① 光や音波といった媒介を利用することで
- ② 低級感覚が媒介であるにもかかわらず
- ③ 光や音波のような媒介があろうとなかろうと
- ④ 感覚器官が対象と接触しているときに限り
- ⑤ 複数の感覚器官を媒介にすることではじめて

Y

6

- ① 人間は生存よりも美的なものを追求する
- ② 私たちはどの感覚でも美的な評価を下せない
- ③ 人生が美的であるかどうかは問題ではない
- ④ 美や芸術は人間の知性よりも優先される
- ⑤ 生きるためには美を犠牲にしなければならない

問三 傍線部1「この点」が意味する内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

7

- ① 視覚や聴覚と異なり、嗅覚には「においが残る」というような現象が起こりうるという点
- ② 嗅覚もまた、視覚や聴覚といった感覚と同じような方法で、対象を捉えているという点
- ③ 対象との直接的な接触の有無によって、人間の感覚は二つのグループに分けられるという点
- ④ 嗅覚は離れたところにある対象を捉える感覚だという考えに、多くの異論があるという点
- ⑤ 何かのにおいを感じる場合、嗅覚はある意味で、対象そのものと接触しているという点

問四

傍線部2の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

8

- ① 対象との接触という観点から感覚をグループ分けすると、接触がない感覚が視覚と聴覚、接触がある感覚が触覚と味覚、嗅覚ということになる。そのような区別は、感覚を知性的であるかどうかによって分けた場合と同様であるということ。
- ② 離れたところにある対象を捉えることができるか否かという基準で感覚をグループ分けすると、それは感覚を知性的か否かで分けた結果と一致する。またそれは、感覚を「高級／低級」に分けたときの結果とも一致するということ。
- ③ 視覚や聴覚は離れたところにある対象を捉えることができるのに対し、触覚や味覚、嗅覚は対象との接触があつてはじめて対象を捉えることができる。そのような考え方もまた、「高級／低級」という価値観にもとづいているということ。
- ④ 快や心地よさを感じるにとどまるのが触覚や味覚、嗅覚であり、美や芸術にかかわるのが視覚と聴覚であるという考えがある。それは、対象との接触の有無によって感覚をグループ分けすることと同じように誤った考え方であるということ。
- ⑤ 私たちの感覚をグループ分けしようとする、知性的かどうかで分ける方法と、対象との直接的な接触があるかどうかで分ける方法がある。それらの方法にもとづく区別は、結果的に「高級／低級」という区別と同じになるということ。

問五 傍線部3について、筆者がそのように考える理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

9

- ① 視覚や聴覚といった感覚があつてはじめて、自分の身体に与えられる危害を回避する行動をとることができるから。
- ② 視覚や聴覚がそなわっていないければ、直接自分の生死にかかわるような危険すら感じるができないから。
- ③ 視覚や聴覚が存在することにより、離れたところから危険を察知し、それを未然に回避することが可能になるから。
- ④ 視覚や聴覚はその他の低級な感覚とは異なり、生きるために必要な情報を確実に感じ取ることができるから。
- ⑤ 視覚や聴覚のように離れたところから察知した方が、その対象がどの程度危険なのかを明確に判別しやすいから。

問六 次のイ～ホについて、本文の内容と合致するものは①に、合致しないものは②に、それぞれマークしなさい。

イ 対象との直接的な接触があるかないかによって、私たちの感覚は二つに分けることができるが、その分類は知性的な感覚とそうでない感覚を分ける際の有力な根拠の一つとなりうる。

10

ロ 低級感覚では快や心地よさといった生存に直接かわからないことしか捉えられず、人間としての経験に不可欠なことを捉えることはできないと、古代から哲学者によって指摘されてきた。

11

ハ 私たちの感覚は何らかのかたちで生存に必要な情報を獲得するのに役立っているため、「生存のための感覚は知性的ではない」という主張を認めるならば、すべての感覚が知性的ではなくなってしまう。

12

ニ 味覚や嗅覚は本能的で動物的なものであるとされる論拠の一つとして、それらは生存に直結するという点が挙げられることがあるが、味覚や嗅覚ばかりが生存にかかわるわけではない。

13

ホ 「においが残る」という日常的な場面からわかることは、私たちの感覚のなかでも嗅覚だけは、物理的な距離のみならず、時間的な距離を超えて対象を捉えることができるということである。

14

第二問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問七）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一

空欄 a

f

に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

a

15

b

16

c

17

d

18

e

19

f

20

① 譲歩

② 遍在

③ 踏襲

④ 徹底

⑤ 満喫

⑥ 完結

⑦ 浮上

⑧ 放棄

問二

傍線部1の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

21

- ① 自然界に存在する個別の事象にカミを感じるのではなく、カミがイメージとして人々に共有されるようになることによつて。
- ② 聖なる存在がこの世に実在するものから切り離され、カミが不可視の存在として表象されるようになることによつて。
- ③ 自然現象や野生動物に人間を超越したパワーを見だし、それらを超自然的なカミとして信仰するようになることによつて。
- ④ それ自体がカミと認識された具体的な事物を抽象化し、イメージとしてのカミの姿が形成されるようになることによつて。
- ⑤ 人間がカミを具体的な事物に見いだすことができなくなり、抽象的なイメージとしてのカミを求めるようになることによつて。

問三

傍線部2の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

22

- ① カミは目に見えない存在ではなく、像として明確な輪郭をもつものであると考えられるようになると、人々はその像が祀られた場所で直接カミを拝むようになったということ。
- ② カミの観念が変化し、カミはこの世界の特定の場所にいつもいると考えられるようになると、人々はカミがいるとされる場所にみずから出向き、礼拝するようになったということ。
- ③ カミは常に特定の場所に存在するものだと考えられるようになると、人々は祭りのときにだけ神社に参拝するのではなく、日常的に参拝するようになったということ。
- ④ カミは絶対的存在であり、王を通じてのみその言葉を聞くことができると考えられるようになると、人々はカミとの対話をやめ、その言葉を一方的に受容するようになったということ。
- ⑤ カミのいる場所は死後の世界ではなく、この世のどこかにあると考えられるようになると、人々はその場所を探し求め、折にふれてカミと直接対話するようになったということ。

問四

空欄

X

Y

選び、マークしなさい。

に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ

X

23

- ① 彼岸世界と現世との関係
- ② カミの世俗的な相貌
- ③ 被救済者としての人間
- ④ 現世と対峙する浄土
- ⑤ 難解な仏教の論理

- ① 天皇をはじめとするカミがもつ聖性の絶対化
- ② 日本に古代から存在するヒトガミの名誉の回復
- ③ 世俗的な事績にもとづく因襲的な身分制からの解放
- ④ 天皇を頂点とする近代的な国家体制を確立する必要性
- ⑤ 身分や地位に左右されることのない万人の平等

問五

傍線部3「くびき」の言い換えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

25

- ① 段階
- ② 現象
- ③ 論理
- ④ 概念
- ⑤ 拘束

問六

傍線部4について、そのような現象が起きた理由として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

26

- ① 神や仏といった宗教的な救済者は、現世において民衆を幸せへと確実に導くことが期待されるようになったから。
- ② おのれの職分をまっとうすることができれば幸せが手に入るようになり、救済そのものが必要とされなくなったから。
- ③ 幕藩体制下の平穏な世の中になると、神や仏も浄土ではなく現世内に定在するとイメージされるようになったから。
- ④ 生きているときに自分の務めを果たせば、一般の人でも死んだ後はカミになれると信じられるようになったから。
- ⑤ 現世と浄土がはっきりと分離するとともに、小さきカミによる俗世的な救済が人々に求められるようになったから。

問七

次のイ～へは本文の論の展開に関して述べているが、説明として適当なものは①に、不適当なものは②に、それぞれマークしなさい。なお、①～②4は段落番号を示している。

イ ①・②では日本列島における原初的なカミのあり方について概説しており、筆者によれば、かつてカミは自然と一体視されていたとされる。そのようなカミは、後の⑨で述べられている「人と対峙する」カミのあり方の一つである。 27

ロ ③で筆者は「次のステップ」という表現をとって、カミが形象化されるようになることを指摘している。しかし、その段階でも聖性は像にとどまるのであり、それらが分離するのは縄文時代の後期になってからだ⑤で述べている。 28

ハ ⑦・⑧では、それまでのカミのあり方に対する反動として起こった、七世紀後半におけるヒトガミの台頭と信仰の変化について説明されている。そして続く⑨～⑪では、そのような変化が起こった背景について筆者の見解が示されている。 29

ニ 筆者は⑩で仏教の思想に言及し、その思想が日本に入ってきたのちどのように変化したかについて、⑫にかけて説明している。そこで取り上げられている「法性神」「本覚神」は、後の⑮にある「カミに上昇する事例」の一つである。 30

ホ 筆者は⑬で、江戸期の日本はだれもがカミとなりうる時代となり、それを背景に朱子学や陽明学が広く受け入れられていったと指摘する。その後、⑭で登場する「ヒトガミのラッシュ」とは、当時のカミの状況を端的に表す言葉である。 31

ヘ 本文は、日本列島におけるカミが古代からどのように変化し、それとともに人々がカミとどうかかわってきたかについて説明している。その変化は、②4にあるような「世界」を形成する過程であると考えることができる。 32

第三問 以下の問い（問一～問五）に答えよ。

問一 次のA～Dについて、傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 国債のシヨウカン金を受け取る。 33

- ① 物資をムシヨウで提供する。
- ② 細かなイシヨウを凝らす。
- ③ 広く学問をシヨウレイする。
- ④ 予算のセツシヨウを行う。
- ⑤ 戸籍シヨウホンを取得する。

B スミやかな対応を心掛ける。 34

- ① 社会がヘイソク感に包まれる。
- ② 一年の無病ソクサイを祈る。
- ③ 民主主義のテツソクを守る。
- ④ セツソクな判断を避ける。
- ⑤ 当意ソクミヨウな判断を下す。

C 長く患った病気がカイユする。 35

- ① ユカイな学生生活を送る。
- ② 遠くまで物見ユサンに出かける。
- ③ 鉄道で貨物をユソウする。
- ④ 政府と財界がユチャクする。
- ⑤ キョウユとして学校に勤める。

D 友人としてチュウコクする。 36

- ① 国にチュウギを尽くす。
- ② 二つの案をセツチュウする。
- ③ 実力がハクチュウする。
- ④ 気球がチュウクウに浮かぶ。
- ⑤ 貨幣をチュウゾウする。

問二 次のA～Cの四字熟語の空欄に入る漢字を、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A ☐ 恩謝徳

37

B ☐ 腹絶倒

38

C ☐ 年満作

39

- ① 宝 ② 報 ③ 包 ④ 奉 ⑤ 豊 ⑥ 抱

問三 次のA～Cのカタカナの語の意味に最も近いものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A オブザーバー

40

B サポーター

41

C コンシューマー

42

- ① 支援者 ② 消費者 ③ 観察者 ④ 関係者 ⑤ 候補者 ⑥ 当事者

問四 次のA～Cの対義語として最も適当なものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 疎遠

43

B 穏健

44

C 妥結

45

- ① 親密 ② 強襲 ③ 過激 ④ 昨今 ⑤ 因習 ⑥ 決裂

問五 次のA・Bの言葉の用法として最も適当なものを、後の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 開陳

46

- ① 県に対して当該情報の開陳を求める。
- ② 記者会見の席上で自分の考えを開陳する。
- ③ 今でもかつての記憶が開陳することがある。
- ④ 店内の棚に商品を丁寧の開陳して並べる。

B サマリー

47

- ① 政策実現のために国民からサマリーを募る。
- ② 自己最高となるサマリーを達成する。
- ③ 報告書のサマリーを作成して配付する。
- ④ 組織のなかで重要なサマリーの一端を担う。